

都市再生整備計画

たかやまちゅうしんちく
高山中心地区

ぐんま たかやまむら
群馬県 高山村

平成27年12月25日

都市再生整備計画の目標及び計画期間

| | | | | | | | |
|-------|---------------------|------|---------------------|-----|--------|----|--------|
| 都道府県名 | 群馬県 | 市町村名 | 高山村 | 地区名 | 高山中心地区 | 面積 | 193 ha |
| 計画期間 | 平成 28 年度 ~ 平成 32 年度 | 交付期間 | 平成 28 年度 ~ 平成 32 年度 | | | | |

目標

- 大目標 地域資源を活用したむらの中心地づくり
 小目標① 景観を生かした観光拠点の創出と住み続けたいむらづくり
 小目標② 農村環境を生かした都市交流事業創出と地域活性化

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

[現況]

- ・本村は、群馬県北西部、吾妻郡の東に位置し、沼田市、渋川市、中之条町、みなかみ町に隣接しており、人口は約3,800人、平成35年将来人口では約2,800人と予測されている。
- ・本地区は村の中央に位置し、人口は、約1,200人と村全体の人口の約1/3が居住しており、村役場、教育施設などの公共施設、医療福祉施設や商業施設が集積しているほか、東西に国道145号線、南北に県道渋川下新田線により交通網が形成され、交通の要衝を占めている地区である。
- ・これまで、国民宿舎わらび荘を活用して、都市部からの農業体験や運動施設を利用した合宿(スポーツ、音楽等)などを誘致してきたが、平成22年に老朽化のため取り壊しとなったため、現在は、小規模な誘致となっている。
- ・今後は、都市部からの観光だけでなく、移住定住者の増加を目指して、自然及び農業等による村の魅力をアピールすることのできる事業を推進していく。
- ・また、村民アンケート及び意見公募等により、村民の憩いの場となる公園が1箇所かつ小規模であることから公園若しくはそれに類するものの整備や天候不良の際に活動できる屋内運動施設の整備が望まれている。

[まちづくりの経緯]

- ・平成10年より、村の美しい星空と光環境を維持することを目的とした「高山村の美しい星空を守る光環境条例」を制定している。
- ・平成23年より、自然と共生しながら形成された山里文化の多彩な景観を保全・継承していくため、景観法に基づく「高山村景観条例」を制定している。
- ・平成24年より、道の駅整備検討委員会が設置され、平成26年4月より、道の駅「中山盆地」としてオープン。
- ・平成27年3月に策定した「第5次高山村総合計画」において、本地区を村の拠点施設の形成、教育文化拠点の形成、歴史居住エリア及び医療福祉地区に位置付けている。また、同計画策定の際に実施した策定委員会、審議会、村民アンケート(回収率78%)及び意見公募(12件)において、公園若しくはそれに類するものの整備、観光交流の場の整備及び屋内運動施設整備について意見があがっている。
- ・平成27年度より、「第5次高山村総合計画」において実施した村民アンケート及び意見公募の内容を受け、緑地広場整備を行うための用地買収を地権者との合意のうえ行っている。
- ・本地区は平成27年7月に策定した高山村の地域資源を活用した村の中心地づくり基本計画の区域を含んでおり、同計画において、緑地広場の整備、観光交流館整備、運動公園整備について示されている。
- ・村では、高山村道の駅公園等整備計画検討委員会を立ち上げ、公園または緑地広場、観光交流館及び運動公園におけるあり方や整備方針について協議を行っている。

課題

- ・本地区は、公共施設、医療福祉施設や商業施設が集積している。また、道路骨格、観光資源といった既存インフラ、ストックも集積していることから、これらを有効に活用した効率的なむらづくりが必要である。
- ・現在は、都市部からの農業体験や合宿(スポーツ、音楽等)等などの誘致が減少していることから、農業体験や合宿(スポーツ、音楽等)等に対して活動しやすい拠点整備が求められている。
- ・村民アンケートにより、憩いの空間となるような緑地広場と子どもから高齢者が活用することのできる機能と安全性を有した屋内運動施設が求められている。

将来ビジョン(中長期)

- ・第5次高山村総合計画では、村の拠点施設の形成として位置づけている。ここでは、村民と観光客との交流拠点の場の形成、農山村風景の保全に努めることを位置づけられている。
- ・高山村の地域資源を活用した村の中心地づくり基本計画では、村の中核となる道の駅「中山盆地」を観光拠点として強化・充実を図り、村民だけでなく村に訪れる人々が増え、交流し、根付くこと目指している。

目標を定量化する指標

| 指 標 | 単 位 | 定 義 | 目標と指標及び目標値の関連性 | 従前値 | | 目標値 | |
|--------------|-----|-----------------------------------|--|----------|------|----------|------|
| | | | | | 基準年度 | | 目標年度 |
| むらの中心地来客数 | 人/年 | 観光施設利用客数(地域振興課統計数値) | 緑地広場及び観光交流館等の整備により、来客数の増加を図る。 | 217,000人 | 26年度 | 300,000人 | 33年度 |
| 滞在型都市交流者数 | 人/年 | 農村体験及び合宿(スポーツ、音楽等)等利用数(地域振興課統計数値) | 都市と農業の交流拠点となる複合施設における観光交流機能の整備をするとともに都市交流者数の増加を図る。 | 20人 | 26年度 | 300人 | 33年度 |
| 観光ボランティア案内回数 | 回/年 | 観光ボランティアガイドの実働回数(地域振興課統計数値) | 観光交流センターを整備することにより観光客数の増加と滞在時間の長期化を目指す。 | 25回 | 26年度 | 50回 | 33年度 |
| 中心地居住人数 | 人/年 | 中心地に居住している人数(住民基本台帳数値) | 中心地づくりを推進することにより、居住人数増加を目指す。 | 1,220人 | 26年度 | 1,220人 | 33年度 |

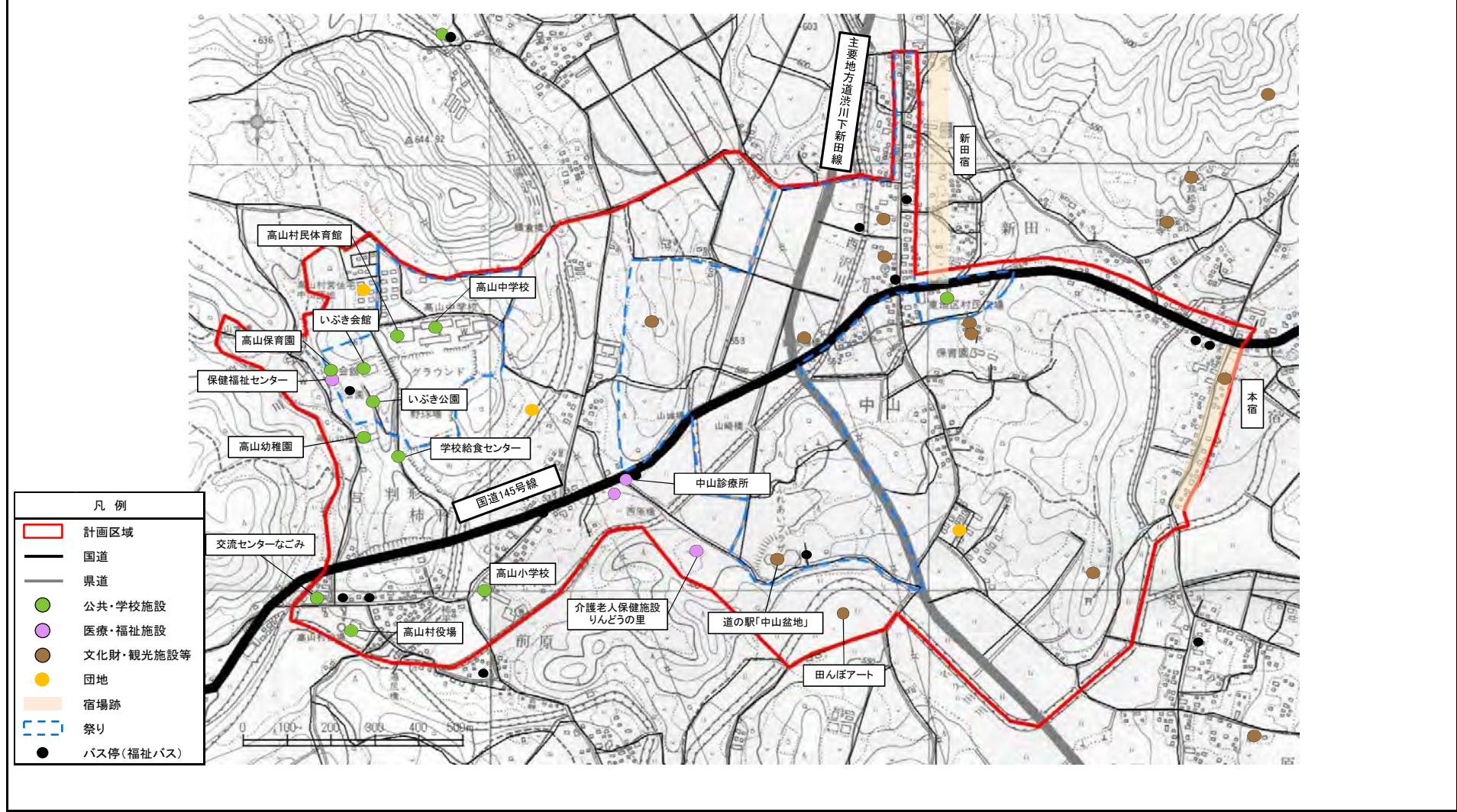
都市再生整備計画の整備方針等

| 計画区域の整備方針 | 方針に合致する主要な事業 |
|--|---|
| <p>整備方針1(景観を生かした観光拠点の創出と住み続けたいなるむらづくり)</p> <p>・村民及び観光客の憩いの場を創出するため、村民にとっては子どもからお年寄りまで楽しめる空間であり、観光客にとっては村の自然を感じることのできる緑地広場を整備する。</p> | <p>【基幹事業】 地域生活基盤施設:(仮称)中山盆地緑地広場整備</p> <p>【提案事業】 事業活用調査:事後評価調査</p> <p>【関連事業】 景観条例見直し事業(規制強化) 新田宿活性化事業 花いっぱい推進事業</p> |
| <p>整備方針2(農村環境を生かした都市交流事業創出と地域活性化)</p> <p>・観光拠点としての強化を図るため、農業体験や合宿(スポーツ、音楽等)等の誘致による、都市との交流を活性化するための拠点施設を整備する。 ・現在の運動広場に雨天でも利用することのできる屋内運動施設を整備する。 ・都市との交流人口の増加により、産業の活性化と地域コミュニティの醸成を図る。</p> | <p>【基幹事業】 公園:高山村スポーツ広場整備 高次都市施設:(仮称)たかやま観光交流館</p> <p>【関連事業】 農業体験事業 景観条例見直し事業(規制強化) 新田宿活性化事業 花いっぱい推進事業 観光PR促進事業 宿泊施設整備事業</p> |
| | |
| <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高山村道の駅公園等整備計画検討委員会 道の駅中山盆地を中心とした拠点施設の形成のため、公園または緑地広場、観光交流館及び運動広場リニューアルにおけるあり方や整備方針について協議を行っている。 ○直売所運営委員会 直売所が主催し、出品者と実施する定例会議を行っている。 ○村の学校はたけ組 自らの手で野菜をつくる企画として、月に一度開催している農作業体験プログラムを行っている。 ○ガイドボランティア 山岳ガイド、たかやまウォーク、ナイトウォーク等の各種イベントを実施している。 ○花いっぱい運動 村内のボランティア団体等により、日本ロマンチック街道(国道145号線)や旧三国街道(主要地方道渋川下新田線)において、花植え等を行っている。 | |

都市再生整備計画の区域

| | | | | |
|----------------|----|--------|----|------|
| 高山中心地区(群馬県高山村) | 面積 | 193 ha | 区域 | 大字中山 |
|----------------|----|--------|----|------|

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



高山中心地区(群馬県高山村) 整備方針概要図

| | | | | |
|----|-----------------------------------|------------|--------------------|---|
| 目標 | 大目標 地域資源を活用したむらの中心地づくり | 代表的な 指標 | むらの中心地来客数 (人/年) | 217,000 人 (26年度) → 300,000 人 (33年度) |
| | 小目標① 景観を生かした観光拠点の創出と住み続けたいなるむらづくり | | 滞在型都市交流者数 (人/年) | 20 人 (26年度) → 300 人 (33年度) |
| | 小目標② 農村環境を生かした都市交流事業創出と地域活性化 | | 観光ボランティア案内回数 (回/年) | 25 回 (26年度) → 50 回 (33年度) |
| | | | 中心地居住人数 (人/年) | 1,220 人 (26年度) → 1,220 人 (33年度) |

